

子牛にこのような症状はありませんか？

右下の写真のような耳の垂れた子牛を発見したことはありませんか？
これはマイコプラズマ感染による中耳炎を発症した場合に見られる症状の一つです。

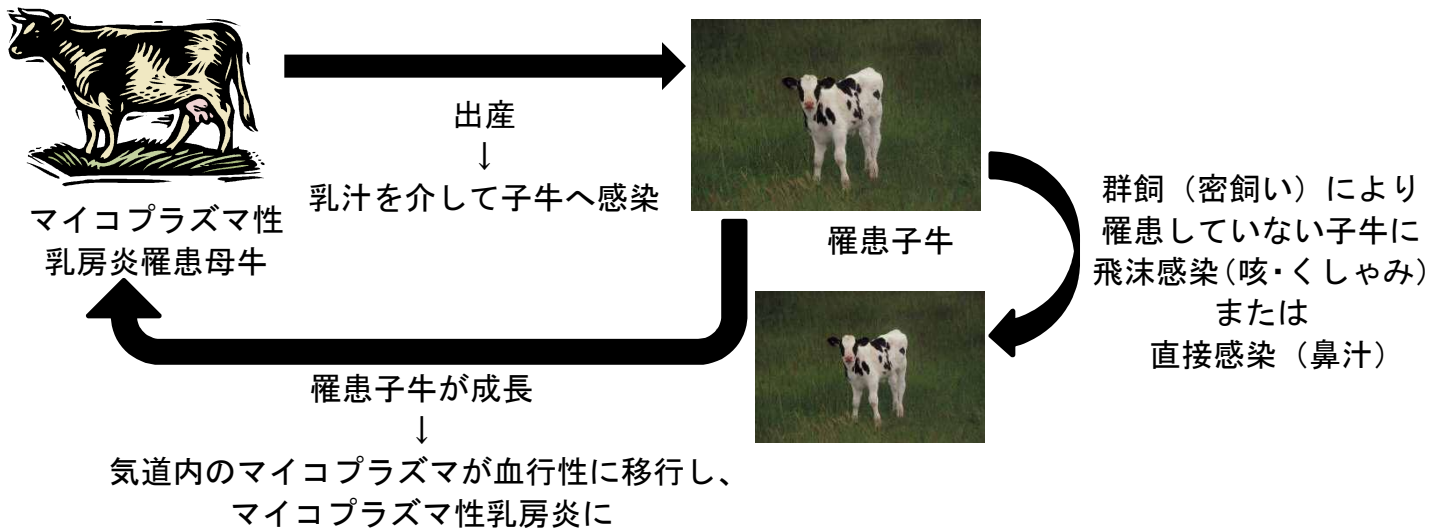
罹患部位の右耳が左耳より下がっている
(耳垂れと呼ばれている)



NOSAI 磐井 家畜診療所通信より

★マイコプラズマ性中耳炎について

・ 感染経路



・ 好発日齢

20～40 日齢に多い

・ 症状

耳垂れ、頭を傾げる、発熱、肺炎などの呼吸器症状

※場合によっては関節炎を伴うこともある。

さらに進行すると…

顔面麻痺、餌を噛めない、斜頸(首が傾く)、平衡感覚を失う

※耳に溜まった膿が神経を圧迫することが原因。

※重度の感染の場合、治療しても回復しにくい。



裏へつづく。

・治療

抗生物質の投与…マイコプラズマに有効なマクロライド系、テトラサイクリン系、ニューキノロン系など

耳洗浄…洗浄液で耳の中に溜まった膿を洗い流し、増殖した菌を減らす

耳の毛剃り…通気性を良くしてムレを防ぐ

(菌は湿気の多い環境で増殖しやすい)



・予防及び対策

①早期発見・隔離

②ストレスの軽減(温度管理、密飼いをしないなど)

③衛生管理(複合感染防止のための呼吸器病ワクチン接種、消毒の徹底など)

※消毒は一般的な消毒薬が有効

熱にも弱いので、熱湯消毒も有効

④初乳の適切な給与

※マイコプラズマ性乳房炎罹患牛の乳を子牛に給与すると発症リスクが高まるので、56℃、30分、加熱殺菌してから給与する。

**清潔な飼育環境、寒さ対策など、まずはできることから取り組み、
マイコプラズマ性中耳炎による被害を最小限に抑えていきましょう!!**



愛知県西部家畜保健衛生所
電話 (0569) 72-0344 FAX (0569) 72-2770